

平成30年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	3	学校名	西の京高等学校
----	---	-----	---------

1. 取組名 平成30年度課題研究Ⅰ・地域フォーラム

2. 活動内容

(取組の概要)

六条小学校区自治連合会を中心とする関係諸機関、奈良市、奈良県などと連携しながら、地域の課題発見と検証、解決策の模索などを「課題研究」の活動として取り組み、「地域フォーラム」の場で「高校生からの提言」として研究成果の発表を行う。

(主な活動)

- (1) 大亀谷国有林の活用と整備：奈良森林管理事務所、赤膚町自治会などとの協働。
- (2) 「ひまわり隊」の活動：六条小学校区自治連合会の連携。
- (3) 障害者との共生：「たんぽぽの家」や六条小学校区自治連合会との連携。
- (4) 観光イベントの活性化：NPO法人なら燈花会の会との連携・協働。
- (5) 地域フォーラムの開催：「課題研究」の成果を地域の方々の参加のもとに開催。

- ① 地域の課題を研究対象に、本校の2年生が「課題研究」に取り組み、その成果発表会を『地域フォーラム』と題して本校体育館を会場に開催。
- ② 『地域フォーラム』には、地元六条小学校区の住民の方々を中心に、約90名の参加者があり、生徒たちの発表に対して「質疑応答」も行う。



「地域フォーラム」発表の様子

3. 成果と課題

「課題研究」では、数年前から「活動の継続性」を重視して地域との連携の強化を図ってきた。上記(1)～(4)の4つの活動は、継続的な活動により内容が深化し、地域の理解と協力を得ている事業である。質疑応答では、地域活動に対するお礼の言葉や、今後の発展的な活動へのアドバイスなども多く、地域との連携を実感している。

生徒側は、高校に入って初めて取り組む内容である。指導者側は「継続性」を重視するが、生徒たちに「過去の蓄積」はない。生徒たちは「こういうものがあつたらいいな」的発想の域を出ないので、教師が「やらせる」形になりがちである。しかし「受動的にやらせる」のではなく、「主体的に考えさせる」ことが重要である。そのためには、教師の意識改革が必要である。また、地域との連携は一朝一夕にはできない。地道な活動の積み重ねと、地域への広報が必要である。

4. 次年度に向けて

今後も地域との連携に重きを置き、「つながり」を大切にしていきたい。また、地域の力を最大限に利用し、生徒の将来につながる経験は積極的に推奨していきたい。観光関連の諸団体や公的機関からのお誘いも多いので、そうした活動にも積極的に参加させ、市や県単位の地域について考えるきっかけにしていきたいと思っている。